

## ●公然と行われているSQに向けての株価操作

株式市場は、清廉で一切不正を許さないというのが建前です。そのため監督機関があり、様々な規制や規則によって公正さが担保されています。しかし、その内側では決して我々には見えないドロドロした葛藤や不正が渦巻いていることも事実です。

監督機関は、日夜違法取引を精査して不正を摘発しようとはしますが、実際には巧みに証拠を残さず市場でうまく立ち回られて、甘い汁を吸い取られていると思われれます。最も大掛かりに白昼堂々と株価操作が行われているのが、SQ（スペシャル・クォーテーション）に向けた動きです。

このSQとは日経平均やTOPIXの先物取引の決済日のことで、第2金曜日の<sup>寄り値</sup>（その日最初についた値段）を決済値段にすると決められています。

なぜ株価操作が可能かと言えば、SQという制度に欠陥があるからです。SQ制度では反対売買をする必要がありません。普通、株を買えば売る、売りから入れば買う、という風に反対売買をして決済するわけです。しかしSQという制度ではこの反対売買の必要がありません。買えば買いつばなしでSQ値で決済、売れば売りつばなしでSQ値で決済です。これではSQに向けて資金量の最も豊富な投資家が腕力に物を言わせて強引に株価形成を行えば、SQ値を自分の意のままに作り出すことができ、その値段で決済可能になるのです。

通常は、巨大な投資家が膨大な量で株式を購入すれば、大きく値段は上がるでしょうが、逆にその株式を買った分だけ膨大に売ろうとすれば、値段は大きく下がってしまいます。要するに市場を動かすような膨大な量の注文を執行すれば、値段は動かすことはできても、その購入した株を高値で売却することができなくなります。常軌を逸した膨大な注文を執行すれば値段は動かすことはできますが、それによって儲けることは至難の業なのです。ところがこの難しさをSQという制度が解決してくれるのです。それがSQ値で決済できるというトリックです。

普通の投資家が今の日本の株式市場で1000万円程度の売り買いをしても、相場に対して大きなインパクトはありません。しかし、1000億円単位で売り買いされれば相場は激変します。1000億円単位でSQに向かって先物を売り叩かれ、反対売買せずにSQ値で決済されてはどうにもなりません。いわばSQという制度は資金量がより豊富な投資家にとって、絶対を負けることのない制度と言えます。

ヘッジファンドの運用資産は全世界で250兆円とされています。しかも、その250兆円にレバレッジをかけて何倍にも増やして襲い掛かることができます。1000億円程度、先物で売りを出せば急落させることができるのですから、日本株を動かすことなど朝飯前でたやすいことなのです。具体的には、SQの前にオプションなどのデリバティブのポジションを作り、SQ値に向けて強引に自らのポジションに有利なように先物を膨大に売り叩くなどして、自分たちの都合のいいような値段を構築させるのです。値段を動かす場合は、先物に大量の売りを一気に投入してSQの手前で大きく相場を下げさせることが効果的です。

### ●日本の市場は株価操作やり放題のおいしい市場

通常短期で株価を操作しようとする場合、上げるより下げさせる方が容易です。相場を下げさせようと思えば一度の先物の注文で1000億円単位の売りものを断続的に出し、一気に相場の場味を悪くさせるわけです。なにかしらの悪材料があれば、それに乗じて徹底的に短期で先物を大量に売り叩けばいいのです。日銀が買おうが年金が買おうがそれ以上の、その数倍の注文を執行して売りつくせばいいのです。永遠に売り続けるわけではありません。SQに向かったその時期だけ徹底的に売るので。

ヘッジファンドにとっては、日本の市場は株価操作やり放題のおいしい市場です。ヘッジファンドの多くは、日本で膨大な利益を出してきました。彼らにとって一番重要なことは、上げでも下げでも相場に変動があることです。変動がなければ儲けることもできません。相場がこう着状態で変動率が低ければ、自ら主導して変動を構築すればいいわけです。そのための儲けどころがSQに向けた動きなのです。ですからSQで儲けるためにその手前の下準備も大事です。

実はそれが月後半の日経平均の上げの演出でもあるわけです。月の後半に大きく上げることによって相場の変動を大きくします。そして時を見計らってSQに向けて一気に相場を売り叩くという算段です。こうすれば値幅が大きくなって、利幅が稼げます。月前半が安く、SQに向かつて売り仕掛けが起き、月の後半が波乱もなく高くなっていくという事実は、ヘッジファンドの継続的な巧みな作戦を感じさせます。

それでは、ヘッジファンドは高いところを買って安いところを売るのかというと、実はその通りです。それでは儲からないではないか？ と思うかもしれませんが、そこが違っています。相場を自由自在に動かすことができればいいのです。相場を思い通りに動かせば、後はアリバタイプを使って大きく儲けることができるからです。そのツールが、反対売買という決済取引を行わなくていいSQという制度の利用で、SQに向けて株価を動かすのが儲けるという意味では一番効率がいいわけです。

そう考えるとSQに向かつて異常な日経平均の急落や、月前半が安く、月後半が高いという統計上あまりに偏った傾向が続いている理由が納得できると思います。

このような情勢であるにもかかわらず、日本の機関投資家もアナリストも当局も個人投資家も誰一人、SQという制度に疑問を呈していない現実には驚かされます。ほとんどすべての投資家たちがSQ制度は投資上の前提で、これは制度であり、当たり前という判断で誰も疑問に感じていないのです。

『株、株、株、もう買っちゃいけない』(朝倉慶) 2015.5.31

# 【SQとは】日経平均株価の動向（1年間）



# 【SQとは】VIXの動向（5年間）

東証

🔔 [アラート設定](#) 🔄 [自動](#) | [手動](#)



1552 ETF

🕒 10:42 リアルタイム株価

国際のETF VIX短期先物指数

1,938 前日比 ↑ +87 (+4.70%)

詳細情報

**チャート**

時系列

ニュース

掲示板

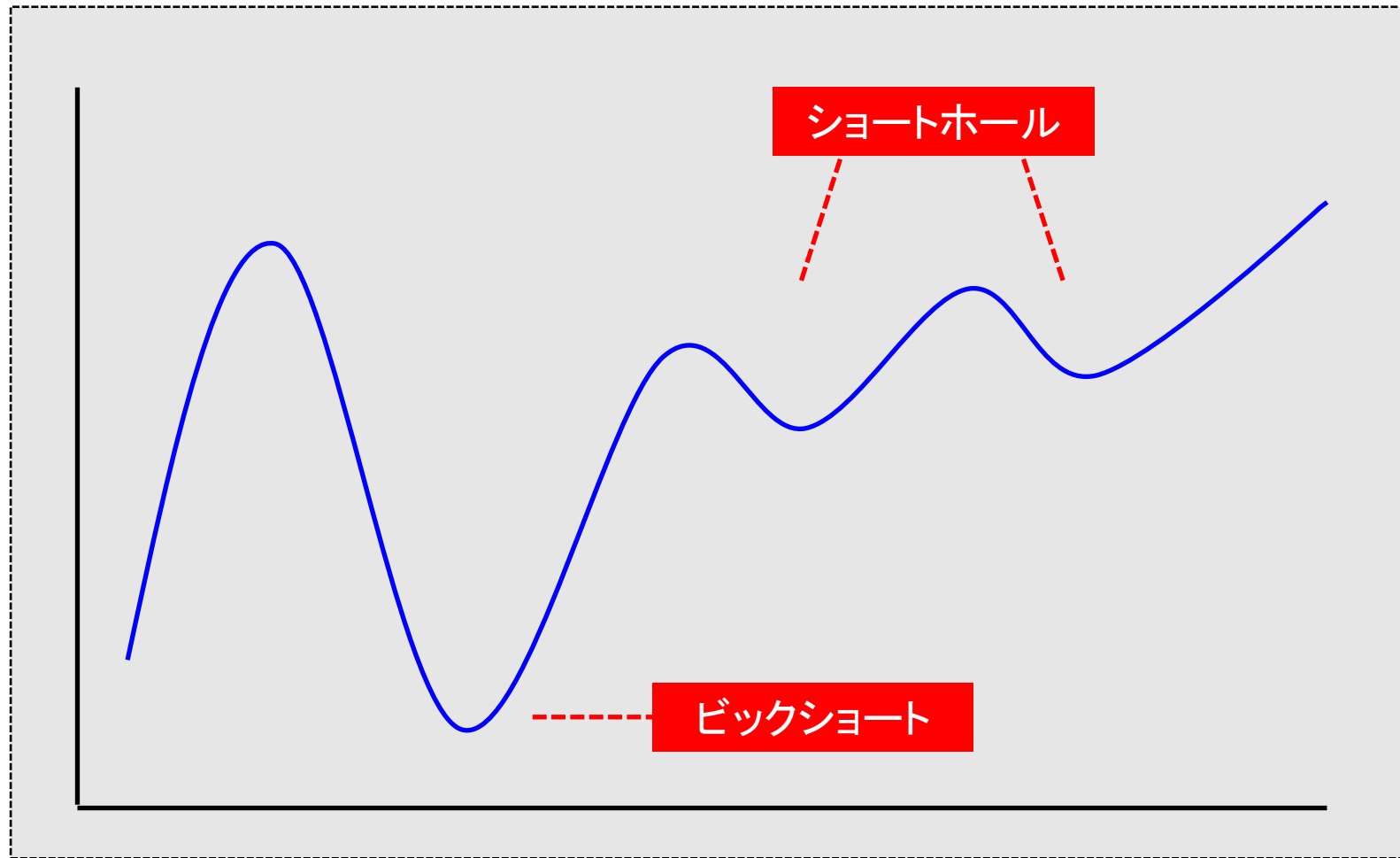
みんなのつぶやき

ETF一覧

▼ [指標を表示する](#)



# 【VIXとは】バブル崩壊への対処法



ビックショート：VIXを利益確定してバーゲンになった商品を買う局面  
ショートホール：下落を恐れずに粛々と株を買い増す局面

『世界第3位のヘッジファンドマネージャーに日本の庶民でもできるお金の増やし方を訊いてみた。』（2017.10.30 塚口直史）より

# 【VIXとは】恐怖指数の長期トレンド

東証

🔔 [アラート設定](#) 🔄 [自動](#) | [手動](#)



1552 ETF

🕒 10:32 リアルタイム株価

追加

国際のETF VIX短期先物指数

8,530

前日比 ↓ -470 (-5.22%)

[詳細情報](#)

[チャート](#)

[時系列](#)

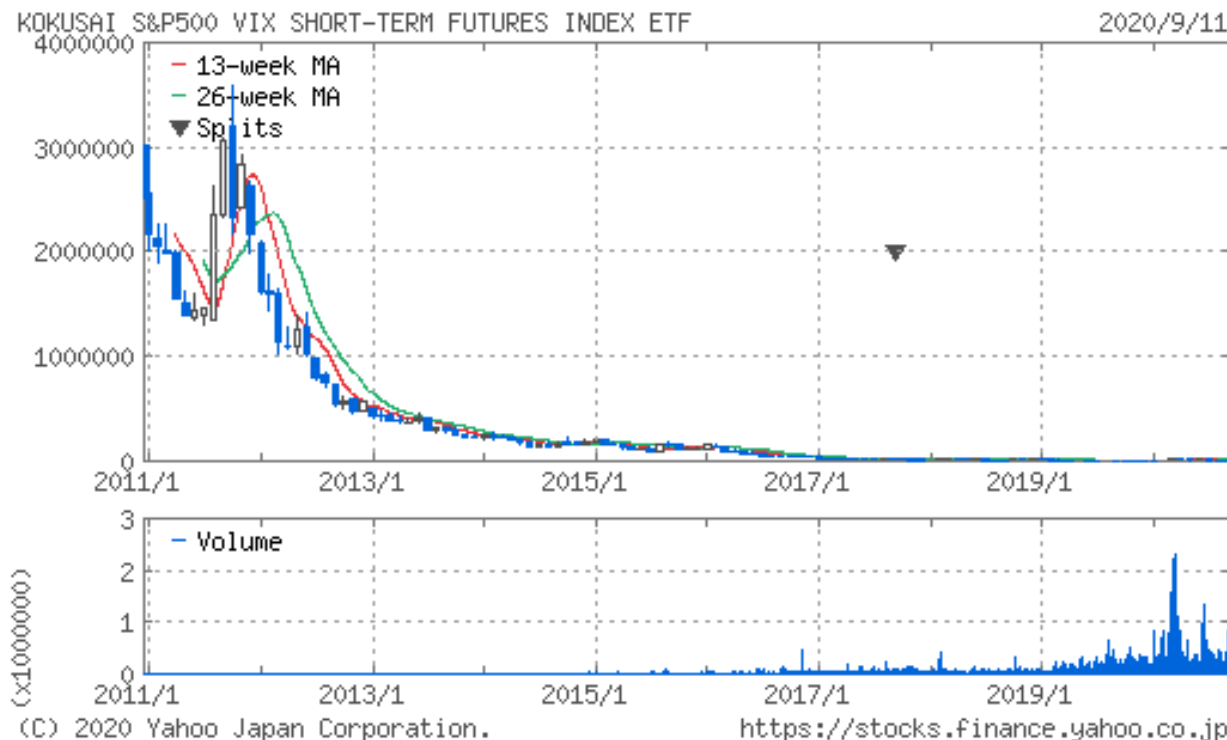
[ニュース](#)

[掲示板](#)

[みんなのつぶやき](#)

[ETF一覧](#)

▼ [指標を表示する](#)



# 【VIXとは】最後のバブルがやって来る (1/2)

コロナショックがあっても、経済は一時的に不況になるだけのことだ。

それは瞬間風速は史上最強だが、トータルの影響はそれほど大きくない。すぐに回復に向かうだろう。

もちろん、その回復がどの程度かという点に関しては、議論が分かれる。しかし、逆に言えば、その程度だ。回復するスピード、戻ったときの経済の水準の高さという相対的な程度の話として議論する水準の危機、不況なのだ。普通の不況にすぎない。

そして、これから再びバブルが起きる。次は、コロナショックへの経済対策と称する大規模な財政出動によるバブルだ。

そして、この短期バブルが最後となり、短期バブルを繰り返した中期のバブル循環が終焉を迎える。

この中期循環は、オイルショック後始まったもので、冷戦終了によりバブル拡大局面を迎え、それがかなりの期間にわたって継続し、大規模に膨らんだ中期バブルの循環となった。

それが、コロナショックによる世界財政出動バブルで終わるのである。

終わるといえるのはどういうことか。

(次頁につづく)

『アフターバブル』(2020.09.17 小幡 績)より

# 【VIXとは】最後のバブルがやって来る (2/2)

これまで、短期バブル循環が終わるたびに、次のバブルをつくることによって、本質的なバブル崩壊の事後処理を先送りしてきた。

リーマンショックで世界金融バブルが終わったが、その本質的な処理はせずに、大規模金融緩和でごまかし、先送りしてきた。その結果、国債バブル、ソブリンバブルが起き、低金利低成長の中、株式も不動産も長期にわたって上昇を続けた。

それ以上にバブルになったのが、ジャンク債市場であり、規模が大幅に拡大した。スタートアップおよびユニコーンと呼ばれる上場前の新興企業市場は、価格付けが異常な水準になった。ベンチャーキャピタル市場バブルとなった。

これらのバブルがコロナショックで崩壊した。10年間の短期バブル循環が終わった。

そして、これからアフターコロナバブルが始まるのである。

今後、救済という名の下に大規模で混乱した、議論や理屈抜きの、節操のない世界大規模財政出動が行われる。いやすでに行われている。この結果、財政破綻が起きる。

その結果、バブル崩壊を救うためのバブルをつくる手段がついに尽き果て、1990年の冷戦終了からの中期バブル循環が終焉を迎えるのである。

『アフターバブル』(2020.09.17 小幡 績)より